

## 爺ヶ岳

平成25年3月14、15日

T岡、H矢、Y川

14日

前日は梓川SAでテント泊、朝8時過ぎに登山口に到着した。晴天の春山日和で、鹿島山荘横を通って登り出す。尾根下部は雪が少なく、地面が一部露出しておりずるずる滑る所もある。やがて雪の斜面となり、順調に高度を稼ぐ。しかし、予想外に暑くて体力を消耗する。ほとんど雲がかからず、周囲の山々の眺めは良い。P3手前まで登ると、単独行者がテントを設営していた。我々はP3を過ぎて幕営することとする。テント適地は、風を嫌うならP3手前で、P3過ぎの尾根上でも数張りは張れる。しかし、場所によっては風への配慮が必要だろう。P3を越えたあたりから雲が飛来するようになり、西方面を見れば厚い雲が見える。しばらく行った尾根上にテントを設営したが、設営を終えた頃から雪が降り出した。

15日

夜、強風が吹き雪も積もったが、未明には晴れ上がった。強風のため少し出発を遅らせる。単独の方は、30分ほど先行している。P2へ取り付くが、北面のためか雪が硬い斜面があり、アイゼンの前爪を蹴り込んで登る斜面もある。ここでT岡さんは、K国製のアイゼンで爪が短く、不安があるということになってBCに引き返すことになった。H矢さんと私は引き続き登る。P2からナイフリッジが始まる。風が強ければ一部ではザイルが必要であろうか、幸い風も収まってきており、順調に登れる。P1手前の斜面もやや急であったが、P1を越えると広い尾根に出る。快晴で、周囲の山がすべて見渡せる。爺ヶ岳へ向け、アイゼンが良くきく広い斜面を登る。最後はハイマツと地面混じりの急斜面となる。ふと左側を見ると、主稜線を7~8人のパーティが歩いている。やがて我々も頂上に到着、素晴らしい眺めを堪能する。先ほどのパーティは神戸から来た山岳会の方々で、南尾根を登ってきたそうである。我々よりずっと年上のように見受けられた。好天のため、爺ヶ岳からの下りでは雪も緩みつつあった。13時過ぎBCに戻ると、嬉しいことにT岡さんが既にテントを撤収してくれていた。下山時は益々気温が上がり、喉の渇きに耐えながら下ったのだが、所々でズボットはまるることがあり、あるいは下部ではずるずるの急斜面の下りにアイゼンをはずすこともできず、最後まで油断できなかった。



P3にて



朝のテント場



P2からのナイフリッジ



朝の爺ヶ岳





P 2



P 1 過ぎから爺ヶ岳



爺ヶ岳山頂



冷尾根と鹿島槍



爺ヶ岳より剣方面



爺ヶ岳より南の山々